



大阪部会(第 39 回)

日 時: 2014 年 6 月 21 日(土) 18:00~20:15

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 39 回の大阪部会の出席者は 11 名。

(1)まず、経済教育ネットワーク野間敏克理事(同志社大学)から最近の活動報告があった。東京証券取引所と共催の「先生のための夏休み経済教室」の日程確認、東京・札幌の部会日程などである。関連して篠原総一代表(同志社大学)から、部会で配布している資料は、事前に添付ファイルで送ってほしいとの要望があった。

(2)次に山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、三つの実践報告があった。①税理士も参加した特別授業で、中学 3 年生の生徒に、贈与税の申告書を作成してもらい、累進課税の考え方を議論したり、税の使い途を知る授業 ②日本証券業協会や東京証券取引所などが共同して行っている「証券知識普及プロジェクト」<http://www.jsda.or.jp/manabu/curriculum/index.html> で開発された教材『株式会社をつくろう!~ミスターXからの挑戦状~』を使った授業 ③おなじく「証券知識普及プロジェクト」で開発された教材『ケーザイへの 3 つのトビラ 経済探求の旅に出よう』の 1 回目「株式会社~ワールドレジャーランド再生計画」を使った授業、である。

いずれも、生徒たちが楽しみながら学ぶこと、ワークシートに書き込み、それを発表するなど、表現学習も豊富に行えるなど、成果があったとの報告であった。それに対して、李洪俊氏(長吉中学校)から、ゲームやワークを使った学習は楽しく授業に引き込むことができ、導入としてはよいが、それをどう深めて生徒に考えさせたり知識として残していくのが肝心だとの意見があった。また、関本祐希氏(交野支援学校四條畷校)より、『税ってなに?』(三木義一監修、全 4 巻、かもがわ出版)という書籍の紹介があった。その他、複数の出席者から、税の実感がない中学生に税のことを教えるのはかなり難しいという発言があった。

(3)丹松美代志氏(池田市教育委員会)から、日本教育新聞に掲載された「金融経済教育」未実施 3 割」という記事が紹介された。

(4)東京部会で埜枝里子氏(府中東高校)が報告した授業実践「社会の幸せを経済で考える~横軸から需給曲線を読む~」を野間が紹介した。生徒への問いかけを通して、需要曲線、供給曲線を描き、均衡で価格が決まると、どのような「お得感」があるのかということを考えさせる授業である。経済学で学ぶ消費者余剰、生産者余剰を使って、市場のよさと規制の問題にまで進むことを目指している。

それに対して、川上敏和氏(同志社大学)から、余剰の話はあくまでも部分均衡であるから、それを「社会の幸せ」とするのは問題との意見があった。篠原代表からも、部分均衡ではなく一般均衡の枠組みで、中高の生徒にわかりやすく「市場のよさ」を教えることは非常に難しく、経済教育ネットワークが始まってからずっと議論しているとの発言があった。

(5)最後に、金融広報中央委員会のセミナーおよび小論文の案内、野村総合研究所の学生小論文コンテストの案内があった。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2014 年 9 月 20 日(土)、時間は 18:00~20:00、場所は未定。